



ECT グッドプラクティス  
—安全で効果的な治療を目指して—

日本精神神経学会 ECT・  
rTMS 等検討委員会 編集  
新興医学出版社  
2020年6月 244頁  
本体価格 7,600円+税

電気けいれん療法 (ECT) は 1938 年に Cerletti と Bini によって始められた精神科身体的治療であり、抗うつ薬や抗精神病薬といった薬物療法と比較しても長い歴史をもつ治療である。現在、ECT はうつ病を中心とした気分障害治療の有効性に関して、最も効果量が大きい治療として知られており、治療抵抗性統合失調症などの治療においても重要なオプションと考えられている。しかし、過去には治療現場での乱用がみられ、治療自体の名前や見た目からもたらされる負のイメージもあいまって、反精神医学を唱える人々からは強い批判の直接的な対象となった。このような背景から、現在では慎重な適応判断や無けいれん性手技、パルス波治療器の開発などで認知機能障害などの有害事象低減に向けた手技の洗練が行われている。

本邦においても、適応や手技の均てん化に向けて、本学会が 2000 年に精神疾患治療ガイドライン策定委員会を設置し、2002 年にはその下部委員会である電気けいれん療法の手技と適応基準の検討小委員会によって『米国精神医学会タスクフォースレポート ECT 実践ガイド』が翻訳書として刊行された。これに連動して、同年には『電気けいれん療法 (ECT) 推奨事項』が策定され、2013 年には改訂版が本学会 ECT 検討委員会および日本総合病院精神医学会 ECT 委員会によって発表されている。同時期には、多くの関連書籍が出版されるに至っている。『ECT ハンドブック』(2004 年、Kellner ら著、澤ら翻訳) や『電気けいれん療法』(2006 年、Abrams ら著、一瀬ら監訳)、『パルス波 ECT ハンドブック』(2012 年、Mankad ら著、本橋ら翻訳) などは ECT を実践している施設であれば、医局の書架に少なくとも 1 冊は置かれているのではないだろうか。しかし、前述した ECT 推奨事項改訂版の発表後は書籍出版が滞り、以降は

日本語による実践書の出版はなかった。一方、世界に目をやると、『Handbook of ECT: A Guide to Electroconvulsive Therapy for Practitioners』(2018 年、Kellner 著) や『Principles and Practice of Electroconvulsive Therapy』(2019 年、Rasmussen 著)、『The ECT Handbook』(2019 年、Ferrier 編集) などの書籍が相次いで出版され、近年見出された新たな知見の集積が出版物として世に出るようになっていた。

このような中、日本の現状を反映した、訳書ではない最新の ECT の実践書の登場が多くの臨床家から強く求められていた。実際に、本書を手にとると、これまでの ECT に関する実践的な訳書と比較して実際の厚みだけではなく内容の充実が驚かされる。全体を構成する 4 つの章は、「ECT の基本知識」「ECT の治療計画」「ECT の実践手技」「資料」とそれぞれ銘打たれている。「ECT の基本知識」では、副題である“安全で効果的な治療を目指して”に則り、現在にまで明らかとなっている有効性に関する最新の報告だけではなく、ECT 施行における注意点や有害事象に多くの頁を割いている。また、備品や機器管理、研修、医療連携といった本邦特有の事情にも言及している点はこれまでの訳書になかった特徴であろう。「ECT の治療計画」および「ECT の実践手技」では、ECT の検討が行われる時点から治療当日における直前の準備、麻酔、施行中の機器操作、発作評価、リカバリー、次回への治療計画に至る各段階における細かい注意点やエビデンスが記載されている。また、「資料」ではタイムテーブル、説明同意書、患者家族向けパンフレット、クリニカルパス、患者紹介用シートが紹介されている。新たに ECT の開始を検討している施設や医師にとって、簡便に利用できる有意義な資料と言えるだろう。

ECT は有効性が高い治療ではあるものの、忍容性にも十分な注意が払われるべきであり、決して万能ではない。ただし、ECT が必要な患者は間違いなく存在する現状において、精神科医は科学的視点からリスク・ベネフィットのバランスを十分に勘案し、十分な説明を尽くして、グッドプラクティスを行わなければならない。これを行う上で、本書は現時点においては最良の書と言える。このような良書の作成に尽力された本学会 ECT・rTMS 等検討委員会には心から感謝を伝えたい。

(木下利彦)